

## 学際生命科学「東京コンソーシアム」の設立趣意書

世界が人類の叡知を求めるなか、教育と研究をとおして社会に貢献する大学の役割は、益々その重要度を増している。すなわち、社会が激しく変化し、人々の価値観が揺れ動く時代であればこそ、広い教養に裏打ちされ、深い専門知識を身につけた有為な人材を育てることが、大学に課せられた基本的使命となる。

しかしながら21世紀の現在、学問の先端に関わる分野において教育の充実、研究の遂行を、個々の大学が単独で行うことには限界があり、困難になりつつある。幾つかの大学が協力し、それぞれが得意とする領域において相互補完的に貢献することができれば、大きな相乗効果が期待されよう。

先端的な学問は、異なる研究領域の最前線がぶつかり合う学際分野で生まれることが多い。21世紀は生命科学の世紀と称されているが、そのフロンティアは幾つかの研究領域を包み込んで大きな流れを形成しつつある。この学際生命科学の分野における教育の充実と研究の推進を基本理念に据え、東京医科歯科大学、お茶の水女子大学、学習院大学及び北里大学は連携する。

この連携をとおして4大学は、それぞれの大学が持つ学術、文化にわたる知の資源を相互に提供し、生命科学を志向する学生に対して、単に専門知識を与えるだけでなく、学生が学び育つ環境を整えて全人教育をほどこすことにより、変動する社会の中で未来を自らの力で切り拓くことのできる広い教養と深い専門性を備えた人間の育成を行う。

東京は、知恵と知識が高度に集積した人類史的にも類例の少ない先端科学都市でもある。4大学を核とした教育研究機関、企業、行政機関を有機的に結んだ地域拠点は、計り知れないポテンシャルを有している。

このような連携活動を基礎に4大学は、

**学際生命科学「東京コンソーシアム」**

を設立する。

学際生命科学「東京コンソーシアム」を実効あるものとするために、

1. 各大学はそれぞれ相互に交流協定並びに覚書を締結し、4大学間における単位互換、研究指導を可能とすること、
2. 4大学が協力して専門共通カリキュラム及び全人教育プログラムを開発し、実施すること、
3. 4大学間で学生、教員及び研究者の相互交流を行うこと、

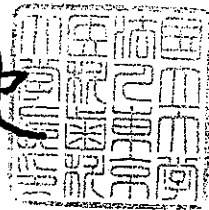
という三点を基礎に、4大学はさらなる連携の核としての役割を果たし、長い伝統を有する東京という地域社会において、学術と文化の世界的拠点となることを目標とする。

平成 21 年 3 月 9 日

国立大学法人

東京医科歯科大学長

大山 喬史



学習院大学長

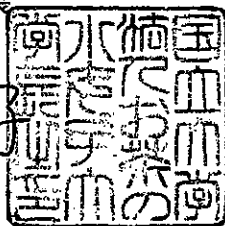
福井 憲



国立大学法人

お茶の水女子大学長

郷 通子



北里大学長

柴 忠義

